

転倒・転落，誤抜去のインシデントにおける パートナーラウンドの現状と課題

Current Status and Issues of partner round in incidents of falling, fall and erroneous removal

西 6 階病棟

西沢麻希 安江佑佳子 山浦綾 横内とみ子 両角裕子

〈要旨〉西 6 病棟では福井大学附属病院で開発されたパートナーシップ・ナーシング・システム，通称 P N S という看護体制を基にパートナーラウンドを2012年12月から実践し始めた。

そこでパートナーラウンド導入後の変化や効果について知るために，ペアでのアセスメント，対策を行うことで効果が表れやすいと思われる転倒・転落，誤抜去のインシデントに焦点を当てた。結果，転倒・転落，誤抜去とともに導入前後で変化はみられなかった。しかし影響レベルⅢa以上のインシデントは導入前に比べ，導入後でわずかに減少がみられた。これは導入後ペアで相談し患者の状況をベッドサイドで評価し，多角的な視点で患者を捉えることができたからと考える。パートナーラウンドの効果として，ペア同士で患者の状況をアセスメントすることでアセスメント能力が向上したと言える。さらにペアでアセスメントしたことをチームでも情報を共有し個別性のある対策が立案できるようになった。そして常にペアで相談する機会が増加したことにより，危険予測が考えられるアセスメントができるようになった。

キーワード：パートナーラウンド，インシデント，チームでの情報共有

I. はじめに

当病棟では福井大学医学部附属病院で開発，実践している P N S（パートナーシップ・ナーシング・システム）を基にしたパートナーラウンドを昨年より実践し始めた。

西 6 病棟で行われているパートナーラウンドの目的は，①先輩看護師から後輩看護師へ，患者に提供する看護ケアの知識と技術の根拠を伝える。②質の高い看護を提供するために，ペアの看護師同士で相談し，アセスメント能力の向上と気づける看護師の育成である。

実際としては，午前，午後，ペアの看護師で10人程度の患者を受け持ち，朝，タイムスケジュールをお互いに相談し，業務を遂行する。ラウンド時はペアで患者の状態に合わせ必要な観察やケアを行っている。

今回，パートナーラウンドにより看護師の危険予測のアセスメント能力が向上することで，インシデントが未然に防げるのではないかと推測した。

そこで当病棟においてパートナーラウンドによりペアでのアセスメント，対策を行うことで効果が現れやすいと思われる転倒・転落，誤抜

去のインシデントに焦点をあてた。そして，パートナーラウンド導入前後1年間のインシデント発生状況の現状をまとめパートナーラウンド導入における変化や効果について知るための研究を行ったので報告する。

II. 方 法

パートナーラウンドの導入前後でのインシデント発生数と誤抜去・転倒の発生数，インシデントの影響レベルの変化について調べた。2011年12月から2012年11月，導入後の2012年12月から2013年11月までを集計した。

倫理的配慮

データについては個人が特定されないよう配慮し，研究以外での目的で使用しないこととする。

III. 結 果

導入前のインシデント総数は38件，内訳は転倒・転落28件，誤抜去10件であった。導入後では総数38件，内訳は転倒・転落27件，誤抜去11件であった。転倒・転落，誤抜去とともに導入前

後で変化はなかった（図1）。

影響レベルⅢa以上のインシデントは、導入前では7件、導入後では5件であった。レベルⅢa以上のインシデントは導入前に比べ、導入後でわずかだが、減少がみられた。

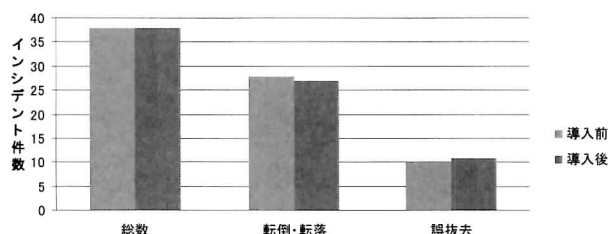


図1 パートナーラウンド導入前後のインシデント数の変化

IV. 考察

インシデント総数・内訳を比較するとパートナーラウンド導入前後で変化はなかった。

しかし、影響レベルⅢa以上のインシデントはわずかだが減少していた。これは、導入前は、個人でアセスメントを行って実施していたが、導入後はペアで相談しながら患者の状況をベッドサイドで評価し、多角的な視点で患者を捉えることが出来るようになったためと考える。そのうえ、経験年数に関わらず、常にペアで相談する機会が増加したことにより、危険予測が考えられるアセスメントができたからである。

また、チームで情報を共有することが影響レベルⅢa以上のインシデントの減少に繋がったとも言える。

一方で、ペア同士の力量の差から十分にアセスメントできないことがインシデントに繋がっているケースが見受けられる。そのために、チームで総リーダーも交えたベッドサイドカンファレンスを行い、対策を考えていくことが有効であり、さらにスタッフのアセスメント能力の向上と育成に繋がると考える。

今後のインシデント対策におけるパートナーラウンドの課題は、ペアでのアセスメントを生かし危険予測に基づき患者の安全を考えた対策を立案し、評価、修正していくことである。

そして今後も、パートナーラウンドを継続し、定着させていくことが重要であると考えます。

V. 結語

パートナーラウンドによりペア同士でアセスメントをし、さらにチームで情報を共有し個々の患者に合わせた対策が立案できる。

また、経験年数の違う看護師がパートナーを組んだり、チームとしてベッドサイドカンファレンスを行うことにより、危険予測に対する若いスタッフの教育・育成の場となる。